

愛染明王像 重要文化財

これは仏教における知恵の王（明王）の一人である愛染明王の像である。明王は通常、憤怒の表情の仏教の守護神の姿で描かれる。1247年に僧の善円が制作したこの像は、腕が六本あり、怒りに満ちた表情をしていて、炎のように赤い円形の光背がつけられている。

幅 14.4メートル、長さは 19.8メートルで、1762年に京都からこの場所に移築された。

愛染堂は江戸中期に京都の近衛家の邸宅の一部の寄進を受けて移築されたものであり、もとは、江戸時代に建築された貴族の邸宅建築の様式を残している。本尊をまつる中央の区画は内陣、外陣にわかれており、南側には歴代の尊霊をまつる御霊屋(おたまや)、北側には高貴な客人と謁見する客殿がある。